

教科	美術科	学年	第3学年	担当者	奥澤 愛
----	-----	----	------	-----	------

**【教科目標】**

- 1 楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。
- 2 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身につけ、意図に応じて創意工夫し表現する能力を育てる。
- 3 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。
- 4 主体的に考え、考えを作品にするために必要な情報を集める力をつける。集めた資料を工夫して利用し、学んだ技術を活用し創作活動ができる。

**【使用教科書・教材等】**

教科書：美術2・3上下（日本文教出版） 副読本：美術資料（秀学社） クロッキー帳 アクリルガッシュ

**【学習計画】**

学期	題材名	学習のねらい（身につけたい力）	準備物
1 学 期	美術を始めるのにあたって（ガイダンス）	・美術で何を学ぶのかを知る これからの学習内容に関心を持ち、学習の意義や内容、評価について理解する。	教科書  クロッキー帳  アクリルカラー ※教材は配布しません。場合によっては廃材など持参することもあります。
	構図に思いをのせて	・被写体の印象や瞬間の美しさなどをもとに、構図の効果を考え、構想を練り表現する。 ・イメージしたことを伝えたいことを他者に伝えられる表現の方法を考える。	
	心がほっとなごむもの  ・鑑賞 「デザイン・暮らしに生きる美術」	・形や色彩、材料の性質や効果に着目し、遊び心などをとらえ、材料や題材の特性を生かし表現する。 ・使う目的や条件、使う人への作用をもとにデザインし、見通しを持って製作を進める。	
2 学 期	自画像 「今を生きる私へ」自分と向き合い、自分の内面を表現する。  ・鑑賞 「空想は現実をこえて」	・今の自分をみつめ、自分を表現するのにふさわしい画面構成を考える。 ・自分が表現したいものに少しでも近づけられるよう試行錯誤する。 ・デザイン的な表現技法、色彩構成など既習の表現方法で自分を主題にして表現する。  ・明暗や色が与える印象の違いを自身の作品に生かす。 ・具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩に着目して印象をとらえる。 ・色彩や構図、時代背景などから作者の意図を感じ取り、自分の考えを持つ。 ・感じたことを他者に伝え、他者との感じ方の違いを認める。	
	3 学 期	・自分へ贈る卒業記念品	

※生徒の様子、学習状況や進度によって、題材の順番の変更や改変をすることもあります。

**【評価の観点と評価の方法】（通知表のつけ方）**

評価の観点	知識・技能(33%)	思考・判断・表現(34%)	主体的に学習に取り組む態度(33%)
評価の観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	・作品評価 用具、素材の生かし方。 意図に応じた表現法。など	・作品評価 ・授業中の活動の中での構想や取り組む様子。（作品、アイデア図、プリントなど提出物含む）など	・アイデアスケッチ、ワークシート ・作品評価（準備物、片付け含む） 作品、プリントなどの記入内容や授業の様子など

**【授業の受け方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）**

- 1 集中して授業に取り組みましょう。  
・1時間1時間を大切に、授業時間を有効に使いましょう。もしも、時間が間に合わない場合などは家庭学習で補うことも必要になります。（構想・発想段階・準備段階）しかし、作品の制作についての家庭での補習は認められません。欠席などで遅れている場合には申し出ると補習は可能です。
- 2 題材ごとに、何を大切にしなければならぬのか理解し、完成予想をしっかりとイメージし制作していくことが大切です。
- 3 考え、決定し、表現する課程の中で完成させる喜びを味わうために各段階での努力を惜しまない。
- 4 必要な資料を準備して授業に臨み、用具などを大切に扱い、管理もきちんとするよう習慣づけよう。
- 5 できあがった作品は大切にしよう。作品はその人自身であると思っ他人の作品も大切にしよう。

**【家庭学習の進め方・学習のポイント】（担当の先生からのアドバイス）**

日常生活で、普段なにげなく見ているものの中に、形や色の美しさ・面白さを発見し感じるようになれば、美術への興味が一層深まります。又、自分から進んで美術の本や写真を見たり、時には美術展などに足を運んだりすることも良いでしょう。たくさん本を読んでいろいろなことを想像できるやわらかい感性を育てよう。世の中にあるものすべてが美術の授業では役に立ちます。新聞を読んだり、ニュースを見たりというのは考えたり表現したりするうえでの助けになります。好奇心をもっていろいろなことに挑戦することが大切です。